

愛知学泉大学並びに愛知学泉短期大学における「生成 AI」の利活用のガイドライン（案）
（職員版） ver.1.0

昨今、ChatGPT 等に代表される高度な「生成 AI」が手軽に利用出来るようになり利用者が急増しています。

「生成 AI」の利活用は、例えば、テニスのダブルス選手権のように一組となって試合に臨み選手間の力量が向上するように、人間の生産性や様々な能力の発揮で、これらを一層高めることを可能とするなどのポテンシャルがあります。

本学 職員にとっては、課題である業務改善、業務の軽減、仕事上の問題解決等において「生成 AI」の利活用が大いに期待できます。

そこで、本学、職員における「生成 AI」の利活用に関しての、ガイドラインを以下に示します。

（1）活用例

① 長い文章等の要約

長い文章や記事等を短い文章に要約（制限文字数内）することを得意としており、論述や説明文等の要約などの下書きに使用することができる。

② 論点の要約・洗い出し・分類

作成した論述内容の論点について、制限文字数内で要約、洗い出しや分類をすることができる。

③ 文章校正

作成した文章について、誤字・脱字、文法的な誤り等の校正をすることができる。

④ 外国語への翻訳

作成した日本語の文章を指定した外国語の文章へ翻訳（特に英語）することが高い精度でできる他、丁寧な言い方に言い換える、などニュアンスを調整することもできる。同様に、外国語の文章を日本語へ翻訳することができる。

⑤ 下書き（草案）の作成

指定した題名に沿った文章を制限文字数内で作成することができ、文章の下書きに活用できる。

⑥ 創作物の作成

指定した条件（テーマや情景）に関して、物語やあらすじなどを創作することができる。

⑦ 自分の考えと正反対の考えを求めることで、批判的な思考力を養うことができる。

⑧ 作成した分掌に対して、第三者としての評価を求める、広い視野での改善が出来る。

⑨ 情報収集

指定した条件（テーマ）に関して、膨大な学習データに含まれる多種多様な情報を基にした網羅性の高い生成物が得ることができる。

- ⑩ アイデア創出
指定した条件（テーマ）に関して、膨大な学習データに含まれる多種多様な情報を基にした網羅性の高い生成物が得られるため、アイデア出しに役立つ。指定した条件（テーマ）から、業務改善について多数の改善アイデアを得ることが出来る。
- ⑪ 指定した条件（テーマ）から、業務改善について多数の改善アイデアを得ることが出来る。
- ⑫ 学生募集等のリーフレット作成・キャッチコピーのアイディアを多数得ることが出来る。
- ⑬ ブレインストーミング
新しいアイデア創出の思考相手となって、アイデアを発想し、練り、提案することができる。
- ⑭ プログラミング支援:
プログラマーや開発者向けに、コードの問題解決やプログラミングの質問に対するアシストを提供できる。コードスニペットの生成やデバッグ支援にも使用できる。例えば、Excel を利用し、業務に合ったプログラミング支援により業務の効率化を図る事が出来る。
- ⑮ 音声認識ソフトと組み合わせができる
音声ソフトで作成した議事録や記録文のテキストデータから、主要な部分を要約して、読みやすい順序でまとめることができる。
- ⑯ 拡張機能（プラグイン）を併用できる
業務推進動画やその他の動画の要約、またPDF資料の要約ができる。
- ⑰ 法律に関する利用
業務上の一般的な法的質問に対するアドバイスの利用、契約書の解釈、法的手続き、権利に関する利用が出来る。
- ⑱ プロジェクト管理:
プロジェクトマネジメントツールと統合し、タスクの進行状況やプロジェクトに関する情報を問い合わせる手段として使用できる。

(2) 上手なプロンプト（入力指示）の方法

入力する際は、自ら想像力を働かせて予測される仮説を立てることが必要です。

- ① 入力情報は正確かつ具体的に行うこと
「生成 AI」は行間を読まないなので、正確に必要な情報を与える（これをプロンプトという）必要がある。例えば、文章の題名（テーマや目的）、重要なキーワード、制限文字数、回答例の個数、説明対象の属性（『誰に向けての説明』など

×悪い例

漠然と「あいさつ文を作ってください」と指定すること→対象が誰か不明である。

○良い例

「○○の案内文を 200 文字程度で作ってください。あなたは責任者です。対象は○

○と一般市民です。講演会のテーマは「○○○」です」

この場合、記号（#）を用いて質問を整理し、さらに制約を付けると、より回答の精度を上げることができる。

制約条件

- ・必要ならば「1.」「2.」「3.」といった形で番号を振ってください
- ・テーマが分かれる場合には適宜【 】を使ってください
- ・注意してほしい部分には太字（Bold）を装飾して強調してください
- ・挨拶文は「ですます調」
- ・一人称は「○ ○」
- ・二人称は「△ △」など

② 質問を重ねることで、出力の精度を高めることができる。

質問して得られた回答に対して再度質問をすることで、回答の精度をさらに上げることができる。これを繰り返す。

③ 高度な活用例として

- ・表形式での出力も可能
- ・Excel の関数の作成も可能
- ・Excel で重複をチェックする関数の作成も可能

(3) 得られた生成物（回答）の利活用

生成物（回答）については、必ず、問いかけの際の仮説に対応した十分な意味（合理性や妥当性）を持っているかどうか、この点を自らが見極める（判断する）ことが何より大切です。その上で、利活用が可能となります。

(4) 利活用にあたっての留意点

① 「生成 AI」の技術的限界（生成物の内容に虚偽が含まれている可能性）

大規模言語モデル（LLM）を活用した「生成 AI」は、基本的に、ある語句の次に用いられる可能性が確率的に最も高い語句を出力することで、もっともらしい文章を作成していくものであり、AI によって生成された内容に虚偽が含まれている又はバイアスがかかっている可能性が考えられる。したがって、出力された内容の確認・裏付け作業を行ない、必ず事実確認（ファクトチェック）を行うことが必要である。

② 機密情報や個人情報の入力また流出・漏洩、虚偽情報発信の等の可能性

「生成 AI」への入力を通じ、機密情報や個人情報等が意図せず流出・漏洩する可能性等があるため、例えば、氏名・住所・疾病・財産等の個人に属する情報、また本学の組織情報（人名・学修成績や評価結果、財務情報等、さらに競争上の地位や正当な利益を害する恐れのある情報等）、公にすると犯罪の被害者やハラスメントの被害者となる恐れのある情報等は入力しない。

また、「生成 AI」は、個人に関する虚偽の情報を生成する可能性が指摘されており、虚偽の個人情報を生成して利用・提供する行為は個人情報保護法に違反し、名

誉棄損や信用棄損に該当する可能性がある。

③ 著作権等

他人の著作物の利用について、著作権法に定める権利（複製権や公衆送信権等）の対象となる利用（複製やアップロード）を行う場合には、原則として著作権者の許諾が必要となる。「生成 AI」で作成した生成物を（ネット）配信・公開する場合は、既存の著作物に類似していないか十分な調査確認が必要である。

- ・画像「生成 AI」を利活用して生成した画像や、『生成 AI』で作成された商品ロゴや広告宣伝に使用する行為は、他者が権利を持っている登録商標権や登録意匠権を侵害する可能性があり、この調査する必要があること。
- ・「生成 AI」の生成物に著作物の内容がそのまま含まれていた場合、これに気付かずに当該出力を用いると、意図せずとも剽窃（他人の著作から語句や文章をとり、自分のものとして使用すること）に当たる可能性がある。

おわりに

本学は、『生成 AI』の利活用とその際の留意点については、社会の情勢を踏まえて引き続き適切な対応を図って改善していきます。

（参考・引用資料）

- ・文部科学省高等教育局 事務連絡「大学・高専における生成 AI の教学面の取り扱いについて（周知）」（令和 5 年 7 月 1 3 日）
- ・神戸市生成 AI の利用ガイドライン 第 1 版（令和 5 年 6 月 2 1 日）
- ・武蔵野大学生成 AI の利用ガイドライン
- ・東北大学オンライン クラスガイド